

平成28年9月定例教育委員会会議録

日 時	平成28年9月23日（金） 午後1時30分～午後2時28分
場 所	秦野市役所教育庁舎3階大会議室
出席委員	委員長 望月 國男 委員長職務代理者 高橋 照江 委員 飯田 文宏 委員 片山 恵一 教育長 内田 賢司
欠席委員	なし
委員以外 の出席者	教育部長 水野 和成 生涯学習課長 佐藤 正男 教育部参事 鈴木 健次 図書館館長 石井 勇次 教育総務課長 山口 均 教育総務課課長代理(庶務担当) 守屋 紀子 学校教育課長 遠藤 秀男 教育総務課庶務担当主事補 山口 優真 教育指導課長兼 教育研究所長 佐藤 直樹
傍聴者	1名
会議次第	<p style="text-align: center;">9月定例教育委員会会議</p> <p>日 時 平成28年9月23日（金） 午後1時30分</p> <p>場 所 秦野市役所教育庁舎3階大会議室</p> <p style="text-align: center;">次 第</p> <p>1 開 会 2 会議録の承認 3 教育長報告及び提案 (1) 平成28年10月の開催行事等について (2) 臨時代理の報告について ア 報告第13号 市立小中学校教職員の人事上の措置について (3) 「第3回いじめを考える児童生徒委員会」の結果について (4) 第29回はだの子ども野外造形展について (5) 「特別支援学級学習交流会」について (6) 第1回いじめ対策連絡協議会の結果について (7) ふるさと秦野検定の結果について (8) 夏季休業中の教育研修事業の結果について (9) 新規採用教員宿泊研修会の結果について</p>

	<p>(10) 秋季特別展「遺跡・遺物が語る！かながわ・秦野の歴史2016」について</p> <p>(11) 第46回秦野市展について</p> <p>(12) 丹沢野外音楽イベント「丹沢譚山2016」について</p> <p>(13) 花音朗読コンサートについて</p> <p>4 その他</p> <p>(1) 要望書について</p> <p>5 閉 会</p>
会議資料	別紙のとおり

望月委員長

ただいまから9月の定例教育委員会会議を開催いたします。お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。

まず、「会議録の承認」について、ご意見、ご質問等がございましたらお願いします。よろしいですか。

—特になし—

望月委員長

それでは、ないようですので、会議録を承認します。

次に、秘密会の取り扱いについてですが、3「教育長報告及び提案」の(2)臨時代理の報告について、ア、報告第13号 市立小中学校教職員の人事上の措置については、非公開情報等が含まれているので、秘密会での報告としてよろしいでしょうか。

—異議なし—

望月委員長

よって、3(2)は秘密会といたします。

それでは「教育長報告及び提案」について、お願いいたします。

教育長

それでは、よろしくお願いいたします。資料のNo.1をご覧ください。「平成28年10月の開催行事等」でございます。

まず、9月29日から10月2日まで「第34回子どもの市展」でございます。文化会館展示室、それから第1会議室で実施いたします。

10月1日、小学校の運動会。その下にあります上幼稚園運動会は、小学校との合同開催ということですので、同日実施でございます。

10月2日から10月30日にかけて、右に記載してありますとおり、本町囲碁大会を皮切りに洋らん展まで「第61回秦野市文化祭」が開催されます。

10月2日「花音朗読コンサート」、これは図書館の視聴覚室を会場に実施いたします。

次のページをご覧ください。10月4日から11月27日まで、桜土手古墳展示館の秋季特別展で、「遺跡・遺物が語る！かなが

わ・秦野の歴史2016」と題して実施いたします。

10月8日、上幼稚園を除きまして、幼稚園・こども園の運動会がございます。

10月9日日曜日ですが、「神奈川フィル金管五重奏アフタヌーンコンサート」を図書館の戸外読書スペースを会場として実施いたします。文化会館との共催ということでございます。

10月11日と25日、例月のブックスタートです。

10月12日、鶴巻小学校の学校教育訪問でございます。時間の都合がつけばご出席いただきたいと思います。

14日、同じく鶴巻中学校です。

10月15日土曜日ですが、丹沢野外音楽イベント「丹沢譚山2016」が、戸川公園を会場に、戸川公園まつりの時期にあわせて実施するものでございます。

次のページ、10月15日から29日まで、公民館まつりということで、15、16日が北公民館まきの木まつり、16日が上公民館まつり、22、23日がおおね公民館まつり、10月29日が東公民館まつりでございます。

10月17日、北中学校の訪問です。

18日は定例の記者会見です。

18日の午前中、10時からですが、初めてですけれども、秦野市が幼小中一貫教育の指定を受けております北小中学校の区域ですが、神奈川県教育委員さんが教育施設等を訪問する一環として推進事業の実態を確認したいということで、北中、北小で給食を食べていただく、こういう予定を組んでおります。

10月19日から23日、「第46回市展・写真の部」でございます。文化会館の展示室、第1会議室で展示です。

それから、10月21日、10月の定例教育委員会会議です。

同じく21日から22日にかけて、パサデナ青少年交流事業のスカイキャンプ、主管が市民自治振興課ですが、野外活動センターで実施いたします。

22日土曜日、ミュージアムさくら塾「発掘で明らかになった秦野・伊勢原」と題して桜土手古墳展示館で実施いたします。

次のページをご覧ください。10月25日が北幼稚園の教育訪問でございます。

それから、26日、翌日が北小学校でございます。

次が、10月29日から11月5日にかけて、秋の読書週間で、図書館に喫茶コーナーを開設いたします。運営につきましては、秦野市手をつなぐ育成会に実施していただきます。例年実施して

教育指導課長

いるものでございます。

最後、10月31日、東小学校の教育訪問です。

これから先につきましては、各課長からご報告させていただきます。

私から、(3)から(9)まで一括で説明させていただきたいと思っております。

まず、資料No.3でございます。「第3回いじめを考える児童生徒委員会」の開催報告でございます。

資料の中の特に5になりますが、内容をご覧ください。

今回は、神奈川県精神保健福祉センター、それから秦野市役所健康づくり課にご協力をいただきまして、講師に臨床心理士のヴィヒャルト千佳さんをお招きしまして、「お友達のSOSをどのようにキャッチするか」というテーマでお話を伺っております。この方は、横浜市で長くスクールカウンセラーとしてご勤務されて、現在、鶴ヶ峰心理グループの代表として県の仕事などを引き受けながらご活躍されております。

今回は、委員が作成した「SOSカード」がより生かされるように、そして、4回目の話し合いに生かされるように、この研修会が企画されております。

幾つか感想が書かれてあり、特に小学生の感想として、一番最後になりますが、「学校が始まるので、今日あったことをクラスのみんなに伝えて広めていきたい」、それから、中学生の感想の一番最初になりますが、「私は、今日の講演会でSOSを発しやすくするためにはどのような事が大切か、ということについて少し考え方が変わった」というような感想が寄せられております。大人が感じる以上に子どもたちの心に響いたように私は感じております。

なお、市のPTA連絡協議会の皆さん、それから各学校の管理職も含めて先生方にも大勢お越しいただいて、実は鶴巻公民館も初めて使わせていただいたのですが、入り切らなくなるのではないかと心配したほど盛況でございました。

続きまして、資料No.4です。「はだの子ども野外造形展について」です。

今年で29回目の開催となりますが、実施期間は、日程の関係で11月2日、3日の2日間開催という形になっております。毎年「市民の日」にあわせて開催しておりまして、多くの保護者の方に参観いただいているということです。

私も去年、教頭として中学校の準備に同行したのですが、

よい天気になることを切に願っております。特に大きな変更点はございませんので、報告をさせていただきます。

続きまして、これも11月の実施なのですが、資料No.5です。今年度の「特別支援学級学習交流会」、通称「のびゆくみんなの交流会」です。

目的としましては、そこに書かれてございますとおり、特別支援学級に在籍する子どもたちが、日ごろの学習成果を発表するとともに、保護者、秦野総合高校による高校生ボランティア、例年どおり、平塚養護学校がこれに加わるのですが、新しく今年度から末広校舎ができましたので、秦野養護学校にもお誘いをかけて、地域とのふれあいという形で開催する予定でございます。

また、救護につきましては、以前は小中学校の養護教諭をお願いしておったのですが、一昨年度からは子ども健康部の保健師の方に依頼させていただいております、今年度も依頼をする予定でございます。

また、今年度は暦の関係もございまして、11月10日、前日には小学校の研究会が、また就学指導委員会が入っております。当日の11日も教育委員会会議が入っていて、日程的には年度当初から大変厳しい状況になっているということは承知しておったのですが、やはり総合体育館の広いフロアで実施するということを最優先にせざるを得ないので、このような日程になっております。その関係で事前の準備をしっかり行っていきたいと考えております。

続きまして、資料No.6です。追加で入れさせていただきました「第1回秦野市いじめ問題対策連絡協議会について」です。

この連絡協議会は、昨年6月から教育委員会会議の中でも協議をしていただきましたが、いじめ防止対策推進法14条1項の趣旨に基づきまして、秦野市学校警察連絡協議会、こちらの組織を母体としまして、いじめの防止等に関係する機関及び団体の連携を図るために、この連絡協議会をこの9月1日に要綱設置をさせていただきます。

9月15日に第1回目の会議を実施いたしました。所管事務としましては、基本方針に基づく関係機関の取組状況、また、いじめに関する各校の実態及び課題、いじめ防止等に向けた効果的な取組みについて話し合いをしております。情報を共有し協議する場ということになっておりますが、今回も1回目をやらせていただいて、会の合間には、関係機関と個別に先生方が積極的に相談する様子も見られまして、この7月から8月にかけて起

きました青森、それから埼玉の事件、こういった事件をほかの市町のこととしないといった空気を感じております。

また、いじめ基本方針については、各学校で立案していただいたのですが、ここで2年たちますので見直しをということで、担当の指導主事から詳しく説明をさせていただいております。

続きまして、資料No.7です。本年度の「ふるさと秦野検定」の実施結果でございます。

今年度も本町小学校をメイン会場にしまして、人数の関係で鶴巻小を例年どおり第2会場として実施いたしました。昨年度から空調が整ったということで、以前は室内での熱中症事故も多発しておりましたので、今回こうやって空調を整えていただいて、熱中症の心配をすることなく実施できたことは、大変ありがたいと思っております。

実施に関しましては、1・2級を合わせました合格者を見ますと57名となっております、増加した反面、3級の合格者が減っております。また、参加者の全体数につきましても、ちょっと課題は感じております。今年度は10回目の実施となりますが、実行委員会の中で、10回という節目になりますから、今後のあり方について再度検討していく予定となっております。

続きまして、資料No.8になります。夏季休業中に実施しました教育研修についての報告でございます。

まず、1の国語教育（毛筆）研修講座につきましましては、横浜国立大学教育人間科学部、青山浩之教授をお招きしまして、「発達段階に応じた文字の学習」と題して研修を開催させていただきました。当研究所としましては、青山先生にお話しいただくのは平成26年度から2回目となりまして、国語科としての書写のお話だけではなくて、日常の中で言語活動を支えていく活動として「目的を意識して文字を書く」と、現在の課題に対するご示唆もいただいております。

県の学びづくりのほうのスーパーバイザーもしていただいでいて、会の前後に直接お話を伺ったんですが、授業の展開が非常に緻密になっておりまして、この書写の指導以外にも、学びづくりのほうで、ぜひとも今後アドバイスをいただいたらいいのではないかと感じております。

続きまして、1枚めくっていただきまして、2の「税関はここまで見ている」と。当初、麻薬探知犬を呼んで実技的なことをやっていたかと思っておりますが、残念ながら、忙しいということでスケジュールの都合がつかなくなって参加できなくな

りましたが、4月からいろいろな報道等で薬物の問題は取り上げられておりますので、非常にタイムリーな中身の濃い研修になりました。

先に、ちょっと1枚めくっていただいて、4番、環境教育研修講座のほうのお話をさせていただきます。

東海大学、岩本准教授による講座で、「自ら考える力を育む環境教育とアクティブラーニング」というテーマで開催しました。参加型学習の方法をご紹介いただきながら、昨今の課題となっております環境教育について意識を高めるような研修になってございます。

ここでも参加型ということで、この後、教育研究所の発表会の中でも触れさせていただきますが、やはり聞くだけの授業ではなくアクティブラーニングの手法をとということで学校現場にお願いしていることもありますので、教育研究所としても、そういったアクティブラーニングという視点で今回は実施してございます。

戻りまして、3番の教育研究所の発表会です。今回は、教育委員の皆様全員と文教福祉常任委員会の市議会議員さんが6名、加えて、社会教育委員2名の方にご参加いただきまして合計303名、たくさんの方に来ていただきました。

今回は、先ほども言いましたが、発表をする中で、全てアクティブラーニングの手法を取り入れて行うよう工夫してみました。特に、初めてふるさと秦野検定への挑戦を実施させていただいて、アンケートなどを見ますと、大変好評だったと思っています。

また、社会教育委員の方からお褒めのお手紙をいただきました。特に、しぶさわこども園の取組みがとても充実していると。東海大学の先生にご指導いただいたものを、そのまま継続して取り組んでいるのが素晴らしいということでお手紙をいただいて、しぶさわこども園のほうも大変感激をしておりました。

今年、夏の研究所の発表会、研修会では、担当する指導主事には立案の段階で2つのお願いをしています。1つ目は、聞くだけのマネジメントではなくて、先ほどから何度もお話ししているような参加型アクティブラーニング、そして2つ目は、各校必ず1名とこちらはお願いしているのですが、もし悉皆という制度がなくなっても参加率が確保できるようなコンテンツを目指してほしいということをお願いしていました。3人の担当の指導主事も工夫してくれまして、アンケートを見る限り、よい兆候が出ているように自己評価をさせていただきます。

先生方、教師の最大のスキルは伝える力だと思います。今後も

教育研究所では、そのスキルとコンテンツのクオリティを高めるために何ができるのか、それを追い求めていきたいと考えております。

続きまして、資料No.9です。「新規採用教員宿泊研修会」でございます。

今年度は、新規採用者42名の参加で、2日間にわたって研修を行いました。詳細につきましてはご覧いただきたいと思います。今回は、特に危機管理につきまして、ここにはお名前を載せていないのですが、冒頭のあいさつの中で教育部長から危機管理についてお話をいただき、私からは、危機管理を含めた薬物防止教育といったものの重要性についてお話をさせていただきました。また、参事から、教師という仕事について非常に興味深いお話もいただいている、非常に内容が充実したと思っております。

毎年少しずつやり方は変わってきているのですが、今年度は、「主体的な取り組み」「対話的な追求」「能動的学び」、この3つの柱を大切に実施してまいったわけですが、2学期には、研究授業等初任者の授業研究等ございますので、今後の教育活動にどう生かしてくれたのかということを見極めていきたいと思っております。

(1) から (9) まで、以上でございます。

私からは、資料No.10から12まで一括してご報告します。

まず、資料No.10の「桜土手古墳展示館 秋季特別展」ですが、毎年、春と秋の2回、市内での出土遺物を中心に特別展を開催しています。今回は、新東名高速道路の建設に伴い、かながわ考古学財団が発掘調査している「寺山中丸遺跡」「蓑毛小林遺跡」「横野山王原遺跡」をはじめ、県西部の遺跡の成果報告を出土品や写真パネルで紹介します。開催期間は10月4日から11月27日まで、展示館のミュージアムプロムナードで行います。

また、特別展に合わせて、年6回開催している「ミュージアムさくら塾」の3回目を10月22日に、かながわ考古学財団の職員が、秦野と伊勢原間の新東名関連各遺跡の発掘調査の成果について詳しく解説します。

続きまして、資料No.11の「秦野市展」ですが、46回目を迎える今年は、市民の芸術文化の振興を図るため、市内在住・在学・在勤の市民を対象に、美術、写真、書道の3部門の公募展として開催します。

事業の運営については美術協会、写真連盟、書道協会に委託し、写真の部は10月19日から23日まで、書道の部は11月2日

から6日まで、美術の部は11月16日から20日まで、それぞれ文化会館展示室などで開催します。

表彰式は、部門ごとに、資料にある日時でそれぞれ行います。

応募作品の受付は会期直前に行いますので、今年の数はまだ未定ですが、参考までに、資料裏面に過去4年間の出品数と来場者数を掲載しています。

最後に、資料12の「丹沢譚山」ですが、今年で5回目を迎えるこの野外音楽イベントは、音楽文化の振興、新たな交流の場を創出し、地域の活性化を図ることを目的に、本市の観光資源である県立秦野戸川公園を会場に開催しています。

事業の企画運営は、音楽愛好家や商店会連合会などで構成する実行委員会と、その下に運営委員会を設置して、企画について議論を重ねてきています。

一昨年からは、観客の相乗効果を狙って戸川公園まつりと同時開催としていますが、今年は10月15日に行います。出演者は、インディーズのアーティスト9組で、全国植樹祭で天皇・皇后両陛下が利用された「御野立所」を舞台に、ロック、ポップスなどのステージパフォーマンスを繰り広げます。また、新たな試みとして、出演者の舞台転換時間を活用して、市内の子どもたちのダンスグループが踊りを披露します。

そして、模擬店は、市内商業者を中心に25店舗を予定しています。当初は10店舗程度だったが、年々店数が増えてきています。

事業費は、155万円ですが、この財源は教育委員会からの事業補助が75万円、残りは市内事業所などの協賛金となっています。また、支出のほとんどは音響設備などの会場整備費となっており、出演者は交通費相当額の謝礼で、1組1万円で協力をお願いしています。

生涯学習課からは以上です。

それでは、次第(13)「花音朗読コンサートについて」を説明いたします。資料No.13をお目通しいただければと思います。

朗読コンサートにつきましては、大人から子どもまで幅広い世代に、簡単に言うと、音楽で読書の楽しさをお伝えすることを目的に平成20年度から開催いたしまして、今年で9回目になります。

日時は10月2日日曜日、午後2時から3時半まで、図書館2階視聴覚室で行います。

今回は、茨木のり子さん生誕90年ということで、茨木のり子

図書館長

さんの作品「根府川の海」、また童話「貝の子プチキュー」、茨木さんの詩集「歳月」から上演させていただきます。

この出演いたします花音さんというグループですが、神奈川県内で平成17年にできたグループで、3名の方の構成になっております。「語りと音楽」でということをお願いしております。

また、紙面2面のほうに、過去、平成25年度から3年間の内容が書いてございます。今年度は茨木のり子さんの内容ということで、「ひとりの女流詩人が残したもの」というテーマで実施いたします。ご参加いただければありがたいと思います。

図書館からは以上になります。

望月委員長

それでは、また例によって進めたいと思います。(1)から(7)ふるさと秦野検定の結果についてまで、ご質問、ご意見ございますか。

飯田委員

ふるさと秦野検定についてですけれども、10年目、10回目を迎えて再度検討していくということなんですけど、教育研究発表の中でも、自分も採点をして、何かすごくよかったので、あそこにいられた先生方も、ああいう体験をして、生徒たちに、こういう検定を受けてみなさいみたいなことを伝えていただければいいなと思います。今年の人数の中で中学生が非常に少ないのですが、これはいろいろな県大会とか、そういう部活の関係で日にちがうまく合わないとか、もしそれであれば、日にちをちょっと変えるような配慮とかも必要かなと思っているのですが、その辺はいかがでしょうか。

教育指導課長

いろいろな理由は考えられると思うのですが、例年、中学生の参加は非常に少ないです。実施時期の問題なのか、コンテンツの問題なのか、やり方の問題なのかという、そこら辺は、もう一度研究所の中でも検討した上で、先ほど言った実行委員会の中で考えていきたいと思いますが、個人的には、この内容がデジタルコンテンツ、タブレットが導入されつつありますので、ポケモンGOではないですが、ああいったものと絡めることはできないかと、中学生でも興味を持って参加できるような体制づくりが重要になってくると個人的には考えます。

以上です。

望月委員長
片山委員

ほかにいかがでしょうか。

資料No.5ですけれども、委託金が5万円という割には、いろいろな競技があると思うのですが、本当にこれで足りているのかということ。あと、増額の必要は全くないのでしょうか。何か、個人的に払っているということがあると非常にまずいと思うので、

教育指導課長

その辺がちょっと気になったので。

こちらにつきましても、例年、実は参加者が大変多くなってきていて、ただ、やはり場所を考えますと、場所の問題最優先ということで、メインアリーナでやらざるを得ないと。そうしますと、この内容で実施するのが現状としては一番望ましいのかなと思っています。ただ、予算的には、今ご意見もいただきましたので、再度、担当と話し合いをして、また次回ご報告したいと思っています。

以上です。

望月委員長
飯田委員

ほかにどうでしょうか。

今の交流会ですけれども、この実行委員10名とあるのですが、この中には秦野総合の高校生とかも含まれるのですか。

教育指導課長
飯田委員

秦野総合高校の顧問の先生が1名入ってございます。

教育指導課長
飯田委員
望月委員長
高橋委員

生徒さんは。

生徒は、実行委員には入っておりません。

わかりました。ありがとうございます。

ほかにどうですか。

資料No.3のいじめを考える児童生徒委員会の結果についてですけれども、先ほど課長が言われましたが、小学生の感想が、本当に何か素直な、本当に率直な感想だと思うんですね。わかりやすくよかったということと、やはり同じ立場で考えてくれるような気がしたというのが、とても印象に残っているのですけれども、「先生に言おう」と言っても「絶対むり」と、本当にこれが素直な今までの感じだったと思うんですよ。それを臨床心理士の先生から具体的に話を聞いて、それをさらにみんなに広めていきたいと思ってくれたことが、本当にいい成果だったと思います。

引き続きまた、外部の先生たちだと、また違う切り口でお話をいただいているので、これからもそのような講演会というのはもっと開いて、子どもたちの感性を磨くというか、そちらのほうもしていきたいと思います。

ここに出てきている生徒たちは、自分の役割をしっかりと認識して出席してくれているので、本当に頼りになるなといった感想を持ちました。これからもよろしく願いいたします。

それと、1つ質問ですが、県の精神保健福祉センターから1名となっている。いつもはどのような仕事をされていて、学校とはどのような関係にあるのかをちょっとお聞きしたいのですけれども。

教育指導課長

先ほど委員からいろいろご意見をいただきまして、本当にあり

がたいと思います。今年のいじめを考える児童生徒委員会は4回ということになっているんですが、先般お話ししましたSOSカード、この2回目は、SOSカードをつくるという作業でした。今回は、SOSカードを今度どういうふうに生かしていくか。7月20日に配らせていただきましたので、そのことで子どもたちの間でいろいろな動きですとか話が出てくるだろうと。それを今度どう生かしていったら、今度、第4回目に、大人も交えた地域の方、PTAの方も含めて、先生方も含めた話し合いの場を設けるというふうに、1回目から4回目までシリーズものというか、つながった形になっています。

それで、このヴィヒャルト千佳さんに関しては、県の自殺防止の取組みの関係で、いろいろな学校に講師をお願いしているというようなことです。今回、秦野市の健康づくり課をお願いしたということがあったのですが、私が5月に市内の自殺防止の関係機関の連絡会の中で、健康づくり課の方がいろいろな取組みをされていると。その中で、ぜひともこれに協力してやっていただけないかということをお願いしたところ、健康づくり課が了解していただいたということで、自殺防止対策の一つの事業として、今回の講師の派遣を受けました。

先ほどちょっと説明させていただいたのですが、ヴィヒャルト千佳さんは、学校のことは大変よくわかっていられて、特にスクールカウンセラーとしてスーパーバイズ的なことも横浜市でされていたということです。ですから、前回もちょっとお話しさせていただいたのですが、SOSカードですけれども、このカードの中に通常であれば相談機関の電話番号を書くと、我々のほうでは原案としてそういう考え方を持っていたのですが、最終的には、部長のご判断もあって連絡先の電話番号を入れなかったのですが、これに関しては大変お褒めの言葉をいただきました。要するに子ども目線だと。子どもが自分たちでよい空気をつくっていくという意味では、子どもたちの意見を取り入れたすばらしい取組みということでお褒めいただきました。

この後の展開としては、子どもの声をキャッチするというのが大人の役割になると思います。ですので、4回目の話し合いの中では、このヴィヒャルト千佳さんからご助言いただいたことを、子どもたちが大人にどう発信していくのか、また、この会場にたくさん先生方が来ていただいています。やはり子どもたちの、声にならなくても、サインというものを大人の側はどうキャッチしていくかというのを広めていきたいというのが、第4回目の試

望月委員長
片山委員

みになります。

以上です。

ほかの方がでしょうか。

わかる範囲で教えていただきたいのですが、今のところですけども、一番最後の中学生も言っているのですが、「いじめ防止集会に向けて生かしたい」という話をしているのですね。これは学校の協力が非常に必要になってくるかと思うので、その辺はどういうふうにやっつけらっしゃるのかということ。

教育指導課長

このいじめ防止集会というのは、市内の南中学校で以前から学校独自にいじめの防止集会を、私の記憶では1月に毎年やっていたいております。現在、ほかの中学校でも同じような趣旨の会というのは幾つか見られることができますが、その中で今回得たものを子どもたちが広めていく、学校の中で啓発していく取組みでございます。

望月委員長

ほかにございませぬか。

ー特になしー

望月委員長
片山委員

それでは残りの(8)から(13)までありますか。

資料No.9の秦野市検定のところですが、「参加者に認定証を配付し」と書いてあるのですけれども、これは1級、2級ということですか。それとも3級を渡したということなのでしょうか。

教育研究所長

これは、参加者の意欲を高めるために独自につくったものであります。

望月委員長
片山委員

ほかはどうでしょうか。

教育研究発表会についてですけども、これは、聞かせていただいて、お話にも出ていましたが、非常に一生懸命発表していただいたと思います。ただ、あのとき一緒にいただいた「探究」という自主研究レポート集、これがあるから聞いていてもわかりやすく、わからないところは見ればよかったですけれども、2つしかレポートがなかったのですね。発表が2つしかなかったのですけれども、特に小学校の発表がなかったのも、そこがちょっと気になっていて、この辺は、やらなくてもいいという感じになっているわけではないと思いますが、状況はどうですか。

教育指導課長

この自主研究自体は、前年度の、平成27年度の内容をこの研究所の発表会で披露していく部分もありますので、やはり私のほうも、ねばならぬ話ではなく、自主的にやっつけらさうというので大変いい制度だと思っています。ただ、それに至るまでに、丁寧な働きかけがやはり必要なのかなと。ですので、今年、私のほうも担当の指導主事と、ちょっと寂しかったねというお話はさせ

片山委員

ていただきましたので、今年度に関しては、もっとたくさん出るような仕掛けを考えていきたいと思っています。

それに関して、冊子集、さっきの「探究」というものが皆さん10ページずつ書かれているのですけれども、これは非常に大作だと思うので、もっと簡単なものでも、例えば半分にするとか。そうすると集めやすいということはないのでしょうか。何かその辺もちょっとお考えいただけるとありがたいです。

教育指導課長

私も内容を見せていただいて、やはりねばならぬものとしてやるのは先生方に負担がかかるので、内容とか本数といったものに関しては、工夫、改善を図っていきたいと思います。

もう既に今年度、ICTの関係でいろいろな取組みを始めております。来年度はもう少し色を出して、たくさん出たねということをお願いいただけるような内容にしたいと思います。

以上です。

望月委員長
飯田委員

ほかにどうでしょうか。

資料No.12の丹沢譚山ですけれども、出演者の方々が大変安い出演料で来ていただいているということですが、この出演者の皆様は、秦野市に何か関係がある方とか、何か由来があるとか、そういう方々なのでしょうか。

生涯学習課長

出演者は、チラシに写真で記載していますけれども、この中で2～3人は秦野市の出身者や在住者のアーティストがいます。

もともと、このイベントは地域振興ということから始まり、音楽を通して秦野をPR、シティ・プロモーションという視点の中で、首都圏で活躍するアーティストに出演してもらおうと、秦野市にゆかりがあるという部分で出演者を決めているわけではありません。

ただ、先ほどの新たな取組みとして、市内で活躍する子どもたちのキッズダンスチームにも発表してもらおうと工夫はしています。

望月委員長

ほかにどうですか。

いろいろ夏休みなどにたくさん研修会があつて、本当にご苦労さまでした。いじめを考える児童生徒指導委員会が、子どもの心に響いたというような報告が課長からありまして、それから、しぶさわこども園について、社会教育委員さんからお褒めの言葉があった。これも長い間の積み重ねが、成果となって表れてきていることを改めて思ったわけです。それから、いろいろ工夫改善に努めているという中で、1泊2日の宿泊ですね、さっき課長が話をしたとおり、夕方の食事が、カレーから今年はバーベキューで

すね。ちょっとしたことなんですけれども、非常に新鮮に目に映って、何か今までのカレーのときよりも参加者が、新人の先生方が生き生きとしていたかなというようなことを思いました。

それから、毛筆の件ですが、これは、僕は非常にいいアイデアでヒットした研修かと思うんですが、簡単に言うと、戦前の師範学校の教育を受けた人と戦後の開放制の教育を受けた人では、板書の字が違うわけですね。やはり戦前の師範学校の先生方の字は、しっかりとした字を書いていた。私は大学で教えていて初めて気がついたのですが、やはり戦前は、師範学校できちんとカリキュラムに書写とか書道のカリキュラムが、いわゆる今で言う大学の教育学部に入っていたんですね。今の大学の状況を見ると、国語科ではやっているかもしれないですけども、他の学科についてはやっていないんですね。

ですから、私は、やはり他の学科なども、そうした毛筆なり硬筆なり書写なりというようなカリキュラムがあってもいいのではないかということ、ここ5～6年感じているんですよ。そういうようなことを東海大学の国語科の先生にお話をしたことがあったんですが、それを補う意味でこのような講座が設けられたのは、先生方にも大変参考になったのではないかと思うんですね。

それで、今聞いてみると、ただ書写の書く練習だけではなくて、今の教育課題に対応できるような指導のあり方というのですか、そんなものが感じられて、今の教育というのはこういうふうになっているのかな、それで、それにどういうふうに対応すればいいのかということ、講師の先生がきちんと把握していたので学校の現場の先生方も参考になったということではないかと思います。

それから、「探究」は昭和62年が第1週目、今まで執筆者が大体5～6人いたんですよ。ところが、執筆者は大分減ってきています。原因を考えると幾つかあるんですね。例えば、研究に集中できる30代の教師が今は非常に少ないということがあるんですね。大体今まで「探究」に応募しているのは35歳あたりから40歳前後の人が多いんですね。その30代が非常に少なくなっているというようなこともあるし、それから、今の教員も非常に多忙であるという理由もあると思うのです。

しかし、教育の研究のハウツーあるいはホワットツーが、なかなか指導を受けていないというようなことも挙げられると思うんですね。ですから、研究の方法なり内容を、指導課あるいは研究所の指導主事の先生がいろいろと教えていく必要があるかなと思います。課長が、来年度はぜひ多くのという力強い言葉がありま

して、その熱意を十分酌み取って、これからもどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかにはどうですか。

高橋委員

今、望月委員長が言われたことに関してですけれども、私も書写は、手本を見て、そのとおりに真似するのだと思ったのですが、そうではないというのが書いてありますね。具体的にちょっと教えていただけますか。どのような内容だったのか。

教育研究所長

ちょっと伝え方が難しいのでシンプルに伝えると、普通は「こう書くんだよ」と教えて、そのとおりにやらせるのが、私たちが持っている書写のイメージで、私も字が苦手なので、そうではなくて、まず、書かせてみて、書かせてみたときに、指導者の側が、こういうところを注意したほうが良いというポイントが3つか4つあるとすると、それに対して発問するんですね。「これはどうなの？」と発問することによって、子どもは何か返してくる。その返してくるものの中にこちらが伝えたいポイントがあったときに、初めてそれを出すというような流れだったかと思ひます。

実は、私も個人的に字があまり上手ではないのですが、ここに書いてあるとおりに、字を書くというのは、相手に伝えるために書くのだということが個人的には大変勉強になりまして、研修以後、私も字がきれいになったような気がします。

以上です。

望月委員長

ほかはどうでしょうか。

高橋委員

新採用の先生の研修会についてですが、私の感想なのですが、参事がお話をされていますね。それで、教師という仕事は、土に種をまくこと。種のまき方で人の育ちは変わってくると書いてあるのですが、やはりこれも先生ならではの感覚ではないかと私は思ったんですね。私も農業をやっていますので、種とかまくのですが、同じ環境で同じ種をまいても、出方はさまざまなんです。きちんとした、まき方をしなければいけないと考へ過ぎてしまうと、その後の結果が先生にすごく負担になってしまふ。同じようにやっても、本当にそれぞれいろいろな出方をして、いろいろなものが出てくるわけですよ。

私はその後の、いろいろな個性を持った子どもたちがいて、その子たちをしっかりと観察する、観察して、その子に合った見守りをするというのが大事ではないかと思ひているので、もし悪いのが出てきたら、まき方が悪かったんだと思ひ先生に全部行ってしまふので、そうではなくて、その後の見守りのほうが、同じようにやっても、本当にその子の個性でさまざまな結果が出て

教育指導課長

くるのであって、その後の観察というか見守りのほうが大変重要なことなので、あまり先生に負担がかかり過ぎないようにして、気持ちをもっと楽に持っていただきたいと思います。

これは、そういうふうにお話しいただくと、書き方の問題がちょっとあると思います。実際には、私がさっき冒頭でちょっと触れさせていただいたのですけれども、私が聞いていても、参事のお話はお上手だなと思いました。というのは、字面にすると何かそういうふうに捉えられてしまうのですが、実際には先生としての責任ということについて触れているのであって、それ以外にも字面になっていない部分でいろいろなお話をいただきました。本当に、確かに短い時間だったのですが、時間にして45分間でしたが、本当にあっという間に終わったような話で、我々指導主事も勉強になったという内容です。

誤解のないようにお話をしておきますが、何か、今、委員がご指摘いただいたような趣旨ではないので、ここの部分に関してはちょっとこちらの書き方で、次年度の課題にしたいと思います。

以上です。

望月委員長

教育というのは農業に非常に通ずるものがあるというのは、僕も非常に思っていますね。結論から言えば、手間暇かける、これは教育も農業も全くそうですね。この参事の話聞いて、これから若い先生方が生きる上でいろいろなヒントが得られたかもしれない。

また、高橋委員は、自分の実体験ですから非常に説得力のあるものですね。ぜひ参考にさせていただければと思います。

高橋委員

本当に参事のお話を聞いたら、新人の先生に向けてのお話だったので、いろいろそういうことの配慮があつての発言だったと思いますので、すみません。

教育指導課長

いいえ、とんでもございません。ありがとうございます。

望月委員長

市役所検定って、どういう検定なんですか。

教育指導課長

ふるさと秦野検定をつくった際に、少し秦野市役所のことも設問の中に入れてまして、子どもたちに、教育委員会や秦野市役所があつて、学校を支援しているんだよということを検定の中にちょっと入れ込んだような内容になっております。

以上です。

望月委員長

こういうふるさと検定というのは、市役所の新人にはやっているのですか。

生涯学習課長

生涯学習課のほうで市史を担当している職員が、研修で講師として、秦野検定ではないですが、市内の歴史的なことについて講

望月委員長

義をしています。秦野検定イコールではないですけども、ふるさとを知ってもらう講義はしています。

今、市の職員は、新採用も、他地区からもかなり多いですね。ですから、秦野市をいろいろ知ってもらう機会をつくるといいかもしれないですね。

ほかにありませんか。

ー特になしー

望月委員長

それでは、その他に入りますが、要望書の説明をお願いいたします。

教育総務課長

そうしましたら、一番後ろについてございます要望書でございます。秦野市の教育を考える会の代表、田村さんから、道徳の教科化について要望がありました。

要望ですので、教育委員会会議に付議しませんが、お配りさせていただきます。

また、回答については、次回の教育委員会会議のときにご報告をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

教育指導課長

内容につきましては、従前から道徳についていろいろなお話が文部科学省からも出ております。その中で、今年の中地区の教育課程の中で、文部科学省の講演を聞いてきた県の指導主事からいろいろ伝達ということで講習を受けています。これから動き出すというような内容もございますので、そういった内容も踏まえながら、今後検討していきたいと思っております。

以上です。

望月委員長

ほかにありますか。

片山委員

今の文部科学省がつくっているという教材ですが、これは、今はどのように利用されているのでしょうか。

教育指導課長

現在も「私達の道徳」というものは秦野市内で使われてございます。ただ、補助教材というか、教科書ではないので、補助教材として、各学校、非常に臨機応変に使っています。

以上です。

望月委員長

ここを見ると、学習指導要領、いわゆる解説編の趣旨と合致するものもいっぱいあるわけですね。ですから、解説の道徳編に照らし合わせながら対応していけばよろしいのではないですかね。

道徳教育推進教師というのは、これは今度の目玉になるわけですね。今までは道徳主任だったのですが、これからコーディネーターとしての推進役が必要で、道徳教育推進教師という名称を使う。ですから、これはもう主幹クラスを持っていくというのは当然になってくるのではないかと思いますよ。

望月委員長

それでは、よろしいですか。

—特になし—

その他の案件は何かございますか。

—特になし—

望月委員長

それでは、秘密会の前に次回の日程調整をお願いいたします。

—次回の日程調整—

それでは、ただいまから秘密会といたしますので、関係者以外の退席を望みます。

—関係者以外退席—

[削除]

以上で9月の定例教育委員会会議は終わります。